

# 学力と学習力を高める学校づくりの推進



- 教委名 行田市教育委員会
- 所在地 行田市本丸2-20
- 電話番号 048-556-8316
- E-mail gakkok@city.gyoda.lg.jp

## 1 研究主題

### (1) 研究の概要

ア 研究主題 「学力と学習力を高める学校づくりの推進」

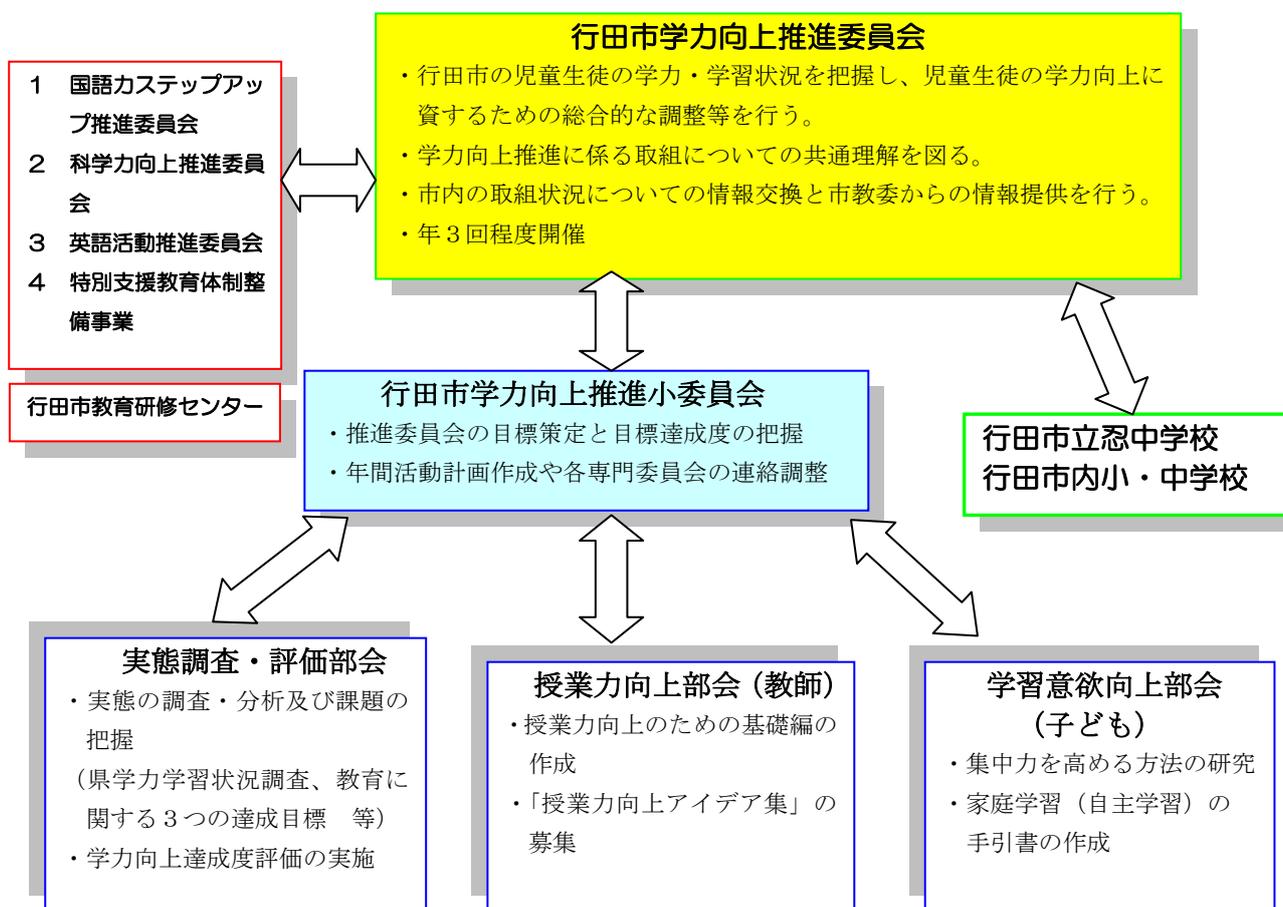
イ 研究主題設定の理由

本市では、「埼玉県学習状況調査」「教育に関する3つの達成目標」の調査結果から基礎学力の定着や活用力の育成に課題があることが明らかになった。そこで、学力と学習力を高める学校づくりを推進することが必要であると考えた。

基礎学力の定着と活用力の育成や言語活動の充実、科学力の向上を図るために、授業力向上や学習意欲向上を柱とした行田市学力向上推進委員会の設置や各推進委員会の活動を進め、各学校との連携を図りながら、市全体の学力向上に取り組んでいく必要がある。

また、本市においては、以前より「小・中学校の少人数学級編制」「小学校英語活動」等を実施している。今後も、各学校が家庭・地域の実態を踏まえ、課題解決のための取組が推進できるように支援していく。

### (2) 研究推進委員会組織



## 2 研究の実践

### (1) 研究実践校への指導・支援

埼玉県より平成22・23年度「学力向上研究校指定事業」について行田市立忍中学校に委嘱され、県教育局市町村支援部義務教育指導課や東部教育事務所の先生方にご指導をいただきながら、研究を進めている。

### (2) 学力向上推進委員会の取組

#### ○ 教育講演会の実施

「学力と学習力を高める指導のあり方～新しい学習評価を踏まえて～」と題して、教育創造研究センター所長、北海道教育大学特任教授である高階玲治先生を講師にお迎えし、顧問の行田市教育委員長をはじめ、市内小中学校の代表、行田市PTA連合会の代表の方、県立進修館高等学校・県立行田特別支援学校・有識者の代表の方、その他多数の出席者を得て講演会を開催した。



(教育講演会から)

#### ① 学習意欲を高めるために(例 子どもへの言葉掛け)

ア ほめる。 イ 認める。 ウ 励ます。 エ アドバイスする。

#### ② 家庭学習(自主学習)の取組のポイント

ア 学習の目当てがわかる。 イ 学習内容がわかる。 ウ 学習のやり方がわかる。

エ 学習時間と場を確保する。(15分×学年) オ 毎日行う。

### (3) 小・中学校の少人数学級編制

子どもたち一人一人に行き届いた「わかる・できる」教育を進め、子どもたちに学ぶ喜びと健やかな成長を支えはぐくむため、小学校1・2年生(30人学級)、3年生(34人学級)と中学校全学年(1年生は30人か34人学級、2・3年生は34人学級)を実施している。

### (4) 小学校英語活動・中学校英語連携推進事業

これまでの小学校英語活動に加え、中学校英語との連携を図るため、中学校の英語教師が小学校に出前授業に行ったり、小学校教師が中学校の英語授業を参観したり、中学校の英語教師が小学校のペア校研修会に参加したりしている。

### (5) 国語力ステップアップ推進事業

国語力ステップアップ推進委員会を開催し、昨年度までに作成し各学校に配布した名詩・名文や古典の活用マニュアルと解説の冊子づくりを行っている。

### (6) 科学力向上推進事業

市内の小・中学校の先生方の希望研修として、夏季休業中に淑徳大学教授の加藤尚裕先生に新学習指導要領の理科の内容や新教材の活用等について、ご指導いただいた。

### (7) 行田市教育研修センターによる研修会

特定研修として、管理職研修会や研修主任研修会、市負担教職員研修会等その他の研修会、希望研修として各教科や道徳、特別支援教育、情報教育、実験・実技等の研修会を実施している。

### (8) 特別支援教育体制整備事業

特別支援学級担任等の専門性の向上や特別支援学級支援籍の活用、市内小中学校教員の発達障害支援に係る指導力の向上等について取り組んでいる。

## 3 成果と課題

成果:各事業の取組に参加した方から有益であったとの意見を多く聞くことができた。また、各学校が学力向上策を実施し、基礎学力の定着が図られてきている。

課題:これまでの取組を継続しながら共通理解を図り、授業力向上や学習意欲向上を柱とした取組の推進を図っていく。